

【原則 3】地域の輝きを大切に

(1) 個性ある地域の発展

施策の目的

市内における多様な市民交流を促進して一体感の醸成を図るとともに、地域への愛着心が高まるよう、地域資源の発掘・発信を進め、地域の輝きを大切にすまをめざします。

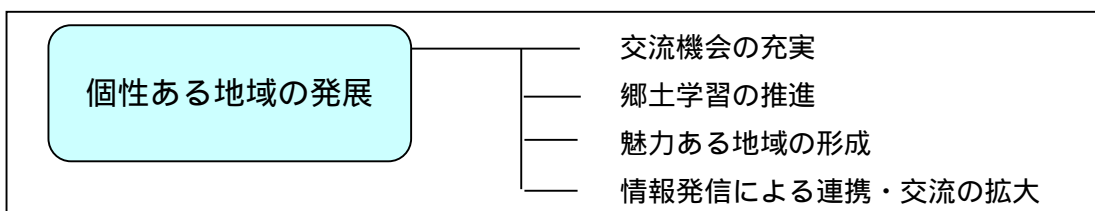
現状と課題

市村合併により新しく誕生した本市のまちづくりを推進していくためには、これまでにない、新たな歴史・文化・自然資源などの魅力を、まず市民一人ひとりが理解しあうとともに、市民をはじめとした多様な団体の連携と交流の促進が重要となっています。

そのため、学校教育、生涯学習などの様々な場面で郷土学習の推進を図るとともに、市民が一体感を持ち、まちづくりに参加できるよう、市民交流をより一層深めていく必要があります。

本市の財産である地域特性・資源をあらためてとらえ直し、情報発信をはじめとした多様な手法により、積極的に交流の取組を進める必要があります。

施策の体系



施策の内容

交流機会の充実

町内会やコミュニティなどの地域活動を支援するとともに、地域間交流や新旧市民の交流、世代間交流の機会の充実を図ります。

また、生涯学習やボランティア活動、スポーツ活動など、多様な市民活動を支援するとともに、団体間の交流や情報提供、活動の担い手となる市民の掘り起こしなどを進め、多分野にわたる人材ネットワークの構築を推進します。

郷土学習の推進

地域の魅力を再認識するため、総合的な郷土学習の機会を提供していきます。

さらに、観光客との交流や国内外の都市間交流を通じて、相互理解を高めるための機会を充実します。

魅力ある地域の形成

厚田区及び浜益区においては、総合計画に即した、より魅力ある地域の形成に向け、地域協議会を核として地域住民が自ら計画し、自ら行動する地域自治の仕組みの確立を図るとともに、本市にふさわしい地域自治を全市域に展開する検討を進めます。

情報発信による連携・交流の拡大

本市の地域特性や地域資源の魅力について、きめ細かい情報発信を全国に向けて積極的に行うとともに、交流の窓口機能を充実し、全国全道各地からの交流人口の増加を図ります。

また、特産品の配送やインターネットを通じた情報提供など、様々な手法による広範な連携・交流の促進を図り、農林水産業や商工業、観光関連産業などの活性化を図ります。

さらに、歴史資源を活かしたまちづくりを進め、地域間の連携と交流の促進を図ります。

成果指標

指標の名称	単位	平成 22 年度 (実績)	平成 28 年度 (目標)
居住地に愛着を持つ市民の割合	%	69.0	69
まちの一体感を感じる市民の割合	%	15.1	16

協働の指針

市民

生涯学習活動、ボランティア活動などによる自己実現

地域・事業者

地域活動に参画するとともに、個性的な地域づくりに協力

国・道

市民の一体感醸成のための事業を支援

市

地域の個性を大切にするとともに、一体感の醸成を促進
各種施策を複合的・有機的に進め、個性あふれるまちづくりを推進

基本事業

地域の情報の提供
地域自治区運営事業

(2) コミュニティ活動の維持・強化

施策の目的

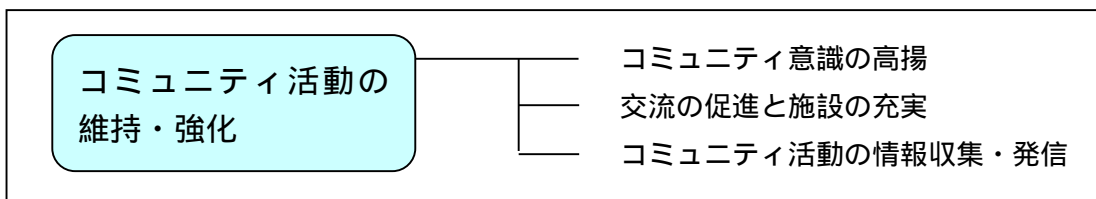
多様なコミュニティ活動の活性化を促進することで、市民自らが主体的に地域課題の解決に取り組むことができるまちをめざします。

現状と課題

従来から地域住民の連帯感を高めるため、各地域において様々な地域活動が行われてきたところですが、生活活動の広域化などに伴い、市民と地域社会との関係が希薄化している状況が生まれてきています。

まちづくりの基本は、コミュニティ単位で行う地道な活動にあることから、市民自らが進める地域づくり、まちづくりのためにコミュニティ意識の醸成と活動への参加促進、活動拠点の充実を図り、活動をより活性化させていくことが重要となっています。

施策の体系



施策の内容

コミュニティ意識の高揚

身近な福祉や地域課題の解決を図るため、広報紙などによる情報提供や生涯学習活動などを通じて、市民一人ひとりが地域に誇りと連帯感を持てるよう、コミュニティ意識の高揚につとめます。

交流の促進と施設の充実

伝統的行事やスポーツ、地域福祉活動などを通じて、市民相互の連帯感を醸成するとともに、コミュニティ活動団体の交流促進や交流の場としての機能を持つコミュニティセンターなどの機能充実を図ります。

コミュニティ活動の情報収集・発信

コミュニティ活動の活性化を図るため、活動の拠点となる地域公民館や集会施設の効率的・効果的な利用促進やコミュニティ活動に関する情報の収集・発信を推進します。

成果指標

指標の名称	単位	平成 22 年度 (実績)	平成 28 年度 (目標)
コミュニティ施設の年間利用者数	千人	199	220
住んでいる地域のご近所付き合いが活発と感じている市民の割合	%	41.8	41.8
町内会加入率	%	75.2	75.2

協働の指針

市民

地域活動への積極的な参加
コミュニティセンターの積極的な利用

地域・事業者

地域活動への積極的な参加
コミュニティ組織との連携
コミュニティセンターの積極的な利用

国・道

地域活動の支援
地域活動の拠点施設整備の支援

市

情報の提供
地域活動の支援
地域活動の拠点施設整備の支援
コミュニティリーダーの育成
コミュニティセンターなど既存施設の適正管理と機能の充実

基本事業

公共施設の管理運営対策事業
町内会組織の支援対策事業
コミュニティセンター改修事業

(3) 適切・計画的な土地利用

施策の目的

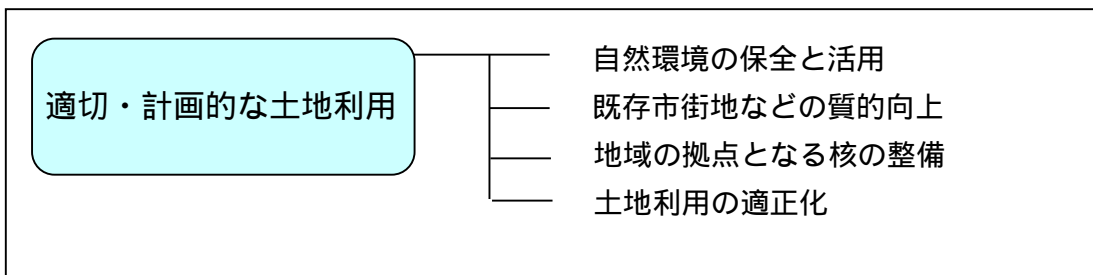
地域の特性を守り、活かしながら、住みやすい魅力あふれるまちをめざします。

現状と課題

近年の生活水準の向上や価値観の多様化に加え、より快適な生活環境の確保や都市的利便性の向上など、社会経済情勢や土地利用に対する市民ニーズが大きく変化してきている状況を踏まえ、環境保全を基本にしつつ、都市型土地利用と自然型土地利用などとの総合的な調整につとめながら、均衡ある発展・活性化を図ることが求められています。

近年、都市計画区域外において、別荘地やミニ開発などが増加傾向にあることから、これらへの適切な対応が急がれています。

施策の体系



施策の内容

自然環境の保全と活用

市域内にある雄大な自然環境については保全するとともに、農業の生産活動とゆとりある人間環境の場としての役割に十分配慮しながら、それぞれの地域資源を活かした土地利用に取組、地域の魅力向上をめざします。

既存市街地などの質的向上

市域南部の既存市街地や工業団地においては、今日的な土地利用のニーズを踏まえ、都市計画制度をきめ細かに運用することにより、未利用地の利用促進と既存の都市機能の有効活用を図りながら、良好な住環境と産業とが共存する「持続可能なまち」をめざします。

地域の拠点となる核の整備

市役所周辺においては、都市機能の充実を図りながら市の中心核の形成をめざすとともに、各区においては、地域特性や歴史性を活かすための公共的な施設や産業系の施設などが効果的に集積された地域拠点づくりを推進します。

土地利用の適正化

本市の豊かな自然を守り、活かしつつ、自然環境や生活環境、歴史的・文化環境を保全しながら、景観にも配慮した土地利用を図ります。

成果指標

指標の名称	単位	平成 22 年度 (実績)	平成 28 年度 (目標)
住環境が良好に保たれていると感じる市民の割合	%	57.2 (H23 調査結果)	
耕作放棄地の面積	ha	133	

協働の指針

市民

地域の特性を活かしたまちづくりに協力

地域・事業者

地域住民との対話やモラルの維持を図り、地域の活性化に寄与

国・道

広域の見地から、適正な土地利用を指導

市

各ゾーンにおいて適切な土地利用の誘導を促進
地域資源を活かした土地利用を推進するため、地権者や開発者への指導と周知の徹底

基本事業

自然環境の保全
都市計画の適正な見直し
公共的施設・商業施設などの誘致活動の推進
開発行為指導ルールの策定